



2019年度 豊岡市施政方針と予算（案）

2019年第1回豊岡市議会定例会（2月22日～3月26日に開催）で、
中貝市長が表明した2019年度施政方針の一部を抜粋してお知らせします。
また、市議会に提案した2019年度当初予算（案）を解説します。
※施政方針の全文は市ホームページ「こちら市長室」に掲載しています。



〔写真：アートスクール・演劇公演／豊岡市民プラザ〕



施政方針

新年度予算案では、経常費の大幅な上昇などによる財源不足に対応するため、多額の財政調整基金の取り崩しを予定しています。

市の財政は、今後急激に悪化する可能性があります。このため、行財政改革に徹底して取り組む必要があります。

しかし、守るだけでは守ることはできません。私たちは、守りつつ攻めていかなければなりません。

【守りながら攻める】

新年度も、地方創生―人口減少対策―に、市の未来に関わる最大の課題として「小さな世界都市・Local&Global City」の実現」を旗印に、総

合的に、かつ、徹底して取り組んでまいります。

その柱は「豊岡に暮らす価値の創造」です。とりわけ「多様性を受け入れ、支え合うリベラルなまち」の実現に当たり、現時点で最大の課題と考えられるジェンダーギャップの解消に、まちを挙げて取り組んでまいります。

ジェンダーギャップの解消

ジェンダーギャップは、人口減少に関わる問題であり、圧倒的な人手不足や生産性など経済に関わる問題であり、まちづくりの推進力など社会に関わる問題であり、そして何よりも、私たちの社会や組織、人間関係における公正さに関わる問題です。

ワークイノベーション戦略、キャリアデザインアクションプランなどを着実に実行しながら、その解消を目指してまいります。

演劇のまち・豊岡

「演劇のまち・豊岡」の可能性を探ってまいります。世界から高い評価を受けている城崎国際アートセンターの存在、劇作家平田オリザさんの移住と劇団「青年団」の移転、(仮称)国際観光芸術専門職大学の誘致など、条件は整いつつあります。

しかも、豊岡の子どもたちは、演劇によるコミュニケーション教育を受けて育っています。単に劇団があり、アーティストがあふれ、演劇を楽しむことができるまちというに止まらず、まちのさまざまな場面に演劇が浸透する、深さを持った「演劇のまち」を目指します。

人口減少との圧倒的に不利な闘いに勝ち抜くために、新年度も豊岡の突き抜けた価値の実現を目指し、全力で取り組んでまいります。